



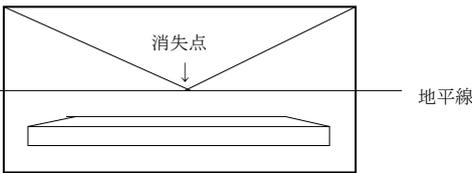
## ○ 料理と絵画Ⅱ



前号でホタテ貝を活用した白身魚のグラタンを紹介しましたが、その写真を掲載していませんでした。今回で紹介します。グラタンがヴィーナスに見えてきます。美しいですね。ハートの形にも見えます。

さて、晚餐を題材にした有名な絵画があったことを思い出しましたので、今回は「料理と絵画Ⅱ」としました。レオナルド・ダ・ヴィンチの描いた「最後の晚餐」です。パンとワインが大切な食材です。この場面の状況を解説するのは省略します。ここでは違う情報を提供いたします。

美術の時間に透視図法※を教える場面でこの絵画を使うことがありました。1点透視図法です。壁や天井の直線が斜めに描かれていますが、こういった線は水(地)平線上の消失点に集まっていきます。まっすぐな道路や線路の上に乗って遙かかなたの消失点に道路が消える風景を想像してみてください。このことを利用することによって画面に奥行きを表現することが出来ます。この絵で重要なことの一つはイエス・キリストの頭部がその消失点の位置に設定してあるということです。そのためこの絵画を見ている人の意識が頭部に集中するようになっています。背後の窓の外には地平線が描かれています。この絵を鑑賞している人(私)とキリストの視点(目の高さ)が同じということにもなります。



「最後の晚餐」レオナルド・ダ・ヴィンチ テンペラ画 1498 420×910 c m  
サンタ・マリア・デッレ・グラツイエ修道院 ミラノ

違う情報です。テーブルの手前に不思議な形態の“四角”があります。何でしょう?この絵は修道院の食堂の壁に描かれています。四角い物体はその建物の一部なのです。ダ・ヴィンチが描いたものではないようです。

## ○ 自校自賛

当たり前のことではありますが、実習では毎日さまざまな献立の調理実習が行われます。右の写真は笹で包んだ和菓子、暑い中での中国料理、ハモの骨切りです。それぞれの作り方にそれぞれ



それぞれのコツがあり、一つずつ技術を習得しなければなりません。たいへんなこともあります。全て自分の財産になります。苦勞のし甲斐はありますね。

今回の植物 : レタス(ちしゃ)

サラダによく活用されます。飾ったものは花を咲かせようよしていました。いわゆる“臺が立った”状態で、味は“おおがら”になってしまいましたが、本来植物たちは花→種が目的で生きているわけで、これが自然の形態ですね。

※透視図法 : 平面の画面に立体感を表現する技法 1~3点透視図法があります。

